

解答

- ① 1 億万 2 昼飯 3 大陸 4 結ぶ 5 照明
 6 博物館 7 季節 8 試みる 9 働く 10 極度
- ② 問一 1 集合 2 全体 3 未来 4 自然 5 敗北
 問二 1 オ 2 ウ 3 ア 4 イ 5 エ
- ③ 問一 イ 問二 1 ウ 2 I 海辺に近い II 先達
 問三 イ 問四 ウ
 問五 1 赤
 2 森が裸になり、強風でまいあがった赤土の土砂が海に流れこんだから。
 3 青い海
- ④ 問一 A ウ B ア
 問二 達弘のおかあさんが仕事の帰りにガムを買って来て、毎日一つずつ達弘と二人の姉の机の上に置
 くから。
 問三 1 引っ～んだ(くんで) 2 ア
 問四 1 エ 2 イ
 問五 エ 問六 イ

解説

- ③ 出典は、^{しゅつてん} 畠山重篤『^{はたけやましげあつ} 鉄は魔法つかい ^{まほう} 一命と地球をはぐくむ「鉄」物語』〈^{しょうがくかん} 小学館〉。
- 問一 空らん前後の内容をよく読み、その関係を考えましょう。それぞれ前の内容に対し、当然予想されるものとは反対の内容が書かれています。
- 問二 1…「尊敬」とは、^{そんけい} 尊^{とうと}びうやまうことです。2…「江戸時代から、^{えど} 海^{うみ}辺に近い森をきってしまうと魚が寄りつかなくなる、という^{りょうし} 漁師さんの^{けいけん} 経験から、大切に保護されてきました」とあり、「^{うしな} 失った森を復^{かっ}活させたところ、^{かいそう} コンブなどの海藻がふえ、サケをはじめとする魚もたくさんとれるようになった土地があるのです」、「^{せんたつ} そんな先達がいたことを知らないまま」とあります。
- 問三 直後に「ところが強風で、どんなことをしても草種が飛ばされてしまう」とあり、その後のゴタを使ったアイデアで「草がうまく育つことがわかりました」とあります。木の^{なえ} 苗を植えるには、まずは草を生やす必要があったのです。
- 問四 「森の中に入ると、クロマツが曲がりくねって腰をかがめたように育っています」とあります。そのあとの「わたしの^{さんりく} くらす三陸の^{えんかん} 沿岸も^{まつばやし} 松林ですが、木はまっすぐです」とあり、木がまっすぐなのはえりもではなく三陸の沿岸です。

問五 明治初期に襟裳岬一帯の人口がふえると、「森が裸になって、強風がふきつけると赤土がまいあがり、沖合十キロまで飛びました。海は土砂で赤くなり、岩礁もうまりだしたのです。魚も寄りつかなくなりました」とあります。その後緑化運動が開始され、苦勞の末四十年かかって森が復活しました。39行めに「青い海がもどってきたことに勇気づけられ」とあります。

④ 出典は、小森真弓「きのうの少年」〈福音館書店刊〉。

問一 Aは葉が風にふかれて鳴る音です。Bはあてもなく自転車で走り回る様子です。

問二 「小さいころから、達弘はポケットにいつもガムを持っている。おかあさんが仕事の帰り、病院の売店で買ってくるからだ。達弘と二人のお姉さんの机の上に、毎日、一つずつガムが置いてあるらしい」とあります。ここの部分をまとめましょう。

問三 1…少しあとに、「アキ……、オレ、引っ越すことになったんだ」とあり、達弘が言おうとしていたことを改めて言い直しています。2…「達弘は無理に笑おうとした」とあり、達弘自身も引っ越すことをつらく感じている様子が読み取れます。引っ越しの理由はそれよりももう少し後でわかります。「前からわかってたことなんだ。オレが中学になったら離婚するって」とあります。

問四 1…「遠慮」とは、人に気をつかって言葉や行動をひかえめにすることです。2…タケやんが達弘を紅白戦にさそうと、達弘は「そういうのって、なんか苦手でさ」と参加をさげようとしています。その様子を「アキには意味がわからなかった。だけど、タケやんには通じたみたいだ」とあり、タケやんには達弘の返事がある程度わかっていたことが読み取れます。

問五 少し前に「あまりにも突然だった。突然すぎて言葉が出ない」とあります。

問六 最初は突然のことにおどろくだけのアキでしたが、達弘がかかえる家庭の事情を思い出します。みんなをさそったのは達弘のつらさを理解し、達弘を思いやる行動であると考えられます。達弘をみんなで元気づけ、いっしょに楽しくすごそうとしているのです。